

千束地区自治会連合会 発行
 地域力推進千束地区委員会

編集長 土屋 光 一
 事務局 電話 3726-4441

勝海舟記念館ついに開館

土屋 光一

国登録有形文化財の「鳳凰閣」(旧清明文庫)を保存し、勝海舟関連資料等の展示施設として、周辺の歴史・文化を活かして整備された「勝海舟記念館」が遂に開館した。



去る9月7日にオープンニングセレモニーが行われ地域の関係者が多数参加した。記念館の

開館により地域にゆかりのある勝海舟の足跡等を現代に伝える施設として千束地域の新しい魅力となることを期待いたします。尚記念館の開館は、午前10時より午後6時まで、入館料は一般300円、小中学生100円です。

オープンニングセレモニーに先立って開催された内覧会で参加された方々に感想をお聞きしたところ、「記念館内の資料が大変豊富で勝海舟の人となりを知る上で大変参考になった(上台台在住男性)」「今までの勝海舟のイメージとは別の魅力を感じた(自治会関係者)」「かつて勝海舟を批判するような文章を見たことがあったが今日内覧会に来て考え方が変わった(南千束在住男性)」等、海舟の魅力を再認識された方々が多かった一方で、「ネオゴシック様式を基調として造られている旧鳳凰閣に



対して増設部分のデザインが合わないのでは？」との声もありました。

さて皆様のご意見は？
 晩年の勝海舟に思いを馳せながら洗足池公園を散策し記念館を訪ねてみてはいかがでしょう？

「ふるさと千束」では「大田区立勝海舟記念館」開館を機会に私たちの街、千束地域の歴史を次ページに掲載いたしましたのでご覧ください。

西暦	和暦	千束の歴史	社会の出来事
860	貞観 2年	千束八幡神社創立	
1282	弘安 5年	日蓮上人 洗足池立寄り(袈裟懸松) 上人死亡後、祠が建てられ御松庵の発祥となる	
1868	明治 元年	勝海舟と西郷隆盛が江戸城明渡しについて会談	
1879	12年	赤松小学校開校 (児童数32名)	
1890	23年		明治憲法施行・市町村制導入 (現大田区は9村へ)
1891	24年	洗足軒に勝海舟入居	
1894	27年		日清戦争始まる
1899	32年	勝海舟、洗足池墓所に葬られる (妻 民の墓は昭和23年青山墓地より移設)	
1904	37年		日露戦争始まる
1913	大正 2年	西郷隆盛留魂碑、荒川区の浄光寺より移設	
1923	12年	大岡山駅開業 (目黒蒲田電鉄)	関東大震災
1925	14年	中原街道改修工事 (湖畔の樹木が伐採され、後に柳、桜を植樹)	
1927	昭和 2年	池上線洗足池駅・長原駅開業	
		「洗足池ボート場」運営開始	
		「チンカラ園」開園	
		御松庵と浅草の妙福寺が合流し、一寺となる	
1928	3年	日蓮聖人銅像洗足池に移設される。	
1930	5年	池上町の人口20,715人、馬込町の人口23,025人、東京市の人口208万人	
1932	7年	洗足池が東京八名勝に選ばれる	
		小池小学校・清水窪小学校開校	
1933	8年	清明文庫開館	社団法人洗足風致協会設立し、洗足池の整備を始める
1941	16年		太平洋戦争始まる
1945	20年		太平洋戦争終わる
1946	21年		日本国憲法公布 (1947年5月施行)
1947	22年	大森区と蒲田区が合併し大田区に (東京23区に)	
		大森第六中学校開校	
1950	25年	(チンカラ園閉鎖?)	朝鮮戦争勃発
1953	28年	洗足池小学校開校	
1955	30年	石川台中学校開校	
1960	35年	洗足池図書館開館	
1964	39年		東京オリンピック
1966	41年	日蓮聖人銅像鎌倉材木座の長勝寺に移設	
1970	45年	ボランティアにより児童グラウンドの整地を始める	大阪万博開催
1977	52年	洗足池駅前「歩道橋」完成	
1990	平成 2年	大田区立洗足池公園として開園	
1991	3年	洗足池水質浄化装置設置	湾岸戦争勃発
1995	7年	「池月橋」竣工	阪神淡路大震災・地下鉄サリン事件
		「春宵の響」開催開始、現在に至る	
2003	15年	「洗足池ホテルの夕べ」開催開始、現在に至る	
2011	23年		東日本大震災、福島第一原子力発電所事故
2012	24年	大田区が鳳凰閣 (清明文庫) を取得	
2016	28年	池月橋架け替え	
		洗足池駅前歩道橋撤去	
2017	29年	旧清明文庫改修工事開始	
2018	30年	旧公園事務所を休憩所に改修	
		「洗足池公園」が東京都指定名勝に指定される	
2019	令和 元年	大田区立勝海舟記念館開館	

※作成には、公益社団法人洗足風致協会にご協力いただきました。

洗足池の「半夏生」

小木 素子

清水窪湧水からの流れに沿って水辺に群生している「半夏生」が今年も見事に咲き揃いました。二十四節季のひとつ、夏至から数えて十一日目を半夏生と言いますが、太陽暦七月二日頃に茎頂に白い穂をつけます。ドクダミ科の多年草で「半夏生」または「半化粧」とも呼ばれています。



臭気があるのに、何とも趣のある素敵な名前をつけて貰いましたね。

今年は間に合わなかった方も、来年は是非、七月二日を目安に散策にお出掛け下さい。

調べてみれば「半夏生」の俳句は沢山ありましたが、こんな句を選んでみました。

雨の日は 雨の明るさ

半夏生 後藤 比奈夫

半夏生 れつきとしたる

花穂持つ 石城 暮石

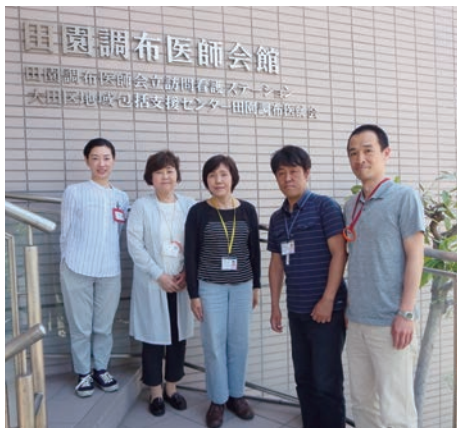
地域を担う力 ④

地域包括支援センター千束 (田園調布医師会)

地域包括支援センターは田園調布医師会が大田区からの委託を受け、平成18年度に設置され14年目になります。

以前は「在宅介護支援センター」・「2年前まで大田区ではさ

わやかサポート」の愛称で親しんでいたりましたが、現在は全国共通の「地域包括支援センター」に統一しており、皆様には「包括(ほうかつ)」と呼んでいただいています。



当センターは、高齢者に関するさまざまなご相談に応じ、必要に応じて自宅に伺い、主に次の役割を担っています。

①介護予防についての相談や予防プランの作成(要支援1・2、事業対象者の方)、普及啓発のための講座、自主活動される団体への相談助言、②消費者被害防止や虐待、成年後見制度など、高齢者の権利を守るための相談

等、③ケアマネージャーのサポート・相談等、④自治会町会をはじめとした地域の方、学校、警察消防、行政等と互いに顔の見えるネットワークづくり等。

当センターが地域の方向けに実施している講座や取組みをいくつかご紹介します。

・「認知症サポーター養成講座」

より多くの方に、認知症について正しく知ってもらい、認知症になっても住み慣れた千束地域で暮らし続けられる地域づくりを目指します。また、小中学生向けのプログラムもあり、今後小中学校の方々と連携し実現していく予定です。

・「熱中症予防の取組み」

5月から9月頃にかけて、熱中症予防を呼びかけるために、老人いこいの家や特別出張所などで、セミナー開催や戸別訪問での注意喚起(水分補給や十分な休息)を行なっています。

また、これからの時期にはインフルエンザ流行の注意喚起をしていきます。戸別訪問は、千

東地域の実態を知る意味合いも兼ねています。

・「見守りキーホルダー登録」

街中で倒れたり事故に遭った時のお守りとして、緊急連絡先や医療情報をあらかじめ登録していただくことで緊急時に備えることができます。この登録受付や、出張登録会を実施しています。

・その他、民生委員との定期懇談による連携強化、「大岡山さくらまつり」への参加で「千束ケアネット（地域の介護事業所有志にて活動）」の介護福祉のPR活動、千束特別出張所との連携など幅広く活動しています。

包括支援センター千束職員一同、千束地域にお住まいの方から身近に感じてほしい、専門職として相談しやすい存在でありたいと思っています。ご相談お待ちするとともに、ご支援ご協力をお願いいたします。

地域包括支援センター千束
問合先 3728-6673

わたしの仲間 その9

実用書道 青松会

実用的書道に重きを置き、資格等を目指すのではなく、和気藹藹の雰囲気の中で手習い書道に励んでいる当会です。



当会は、発足から二十余年余りとなり、高齢化もあり、会員も減少気味ですが、少数精鋭で日々の習作を行っています。その中で、十月の「石川町文化センターまつり」や「大田区文化祭」出展に向けての作品づくりが会員最大の汗のかき処となっています。

活動日は、毎月二回週末の午前中という、比較的参加しやすい時間帯となっています。また、年末には「年賀状」に向けた習作等も折込まれたりしますので、初心者の方も高齢者の方も、お気軽に筆を持ちませんか。

代表者 立石 尚海
連絡先 3726-7362

千束地区管内の数字		
人 口	男	11,654人
	女	13,285人
	計	24,939人
世帯	13,622世帯	

令和元年10月1日現在

編集後記

新元号「令和」となり、9月に開館した「大田区立勝海舟記念館」は展示物も充実し、見応えのあるものばかりです。その帰りに勝海舟の墓前に手

を合せ、ふと長原の故岸田吉蔵編集委員の今から二十数年前の昔話を思い出しました。

編集会議が終わると四方山話に花がさき終るのが大体五時近くです。故岸田氏のお父さんの子供の頃、洗足池で釣りをしていると、勝氏を通りかかり、「小僧つれるかい？」ときかれて、「〇ぼそー」と答えたそうです。

その数年後勝氏が永眠し埋葬時の話です。四角い大きい穴を掘り、矢板を打ち、足場を組み、沢山の雑木の束を敷きつめ、その上に炭俵を敷きお棺を納め、炭俵、雑木の順に土をかぶせ、手厚く葬ったそうです（第42号 恵良氏の寄稿によりますと炭三〇〇俵にてくるむ）。

昨年の豪雨、大台風、今年も十五号、十七号超大型台風と豪雨と被災地は大変です。停電回復も予定より、何度も延引し住民の苛立ちも限界です。一日も早い復興を心よりお祈りいたします。

Y・A